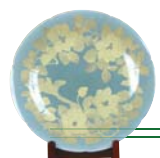
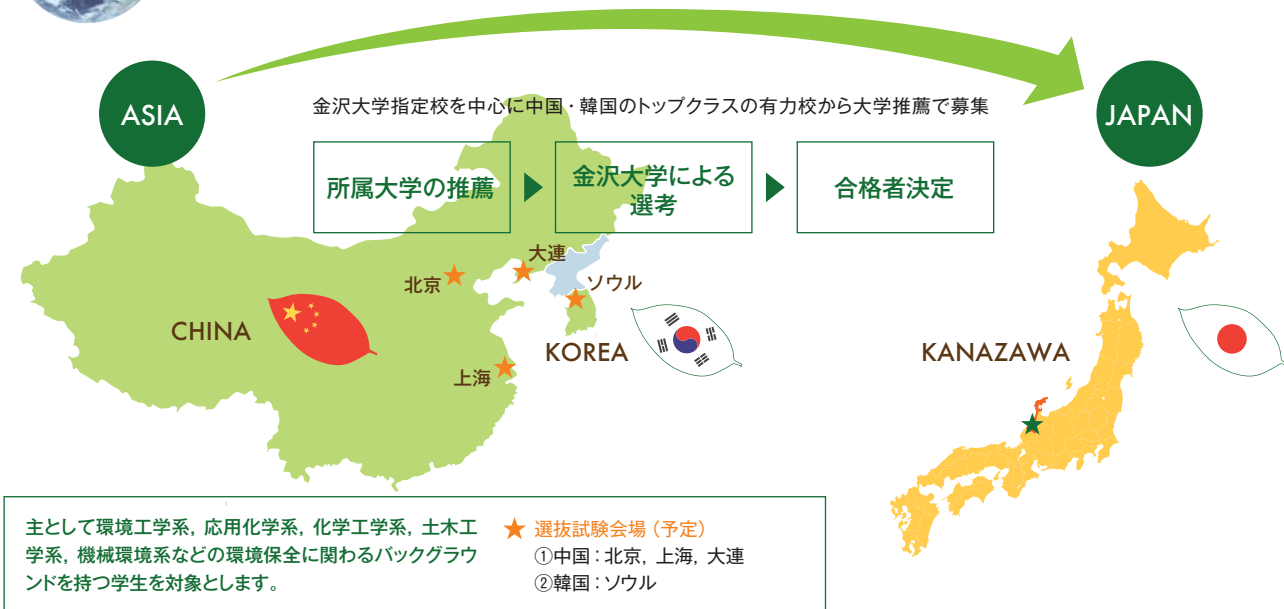




留学生受け入れのイメージ

Acceptance



伝統とモダンが共生する街「KANAZAWA」があなたの舞台です。

伝統と最先端の文化・芸術発信が織りなす創造都市・金沢

金沢大学のある石川県金沢市は、400年以上の歴史を持ち、京都と並んで、日本の伝統文化が色濃く残る街として有名です。市内の中心には、金沢城や日本でも有名な日本庭園のひとつである「兼六園」、そして古い街並みが今でも多く残り、多くの観光客で賑わっています。現在でも、北陸地域の政治・経済・文化の中心として多くの政府機関や大企業の支社などが立地しています。

柔軟で自在な学びを実現する「学生のための大学」
「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」を目指し、
「東アジアにおける知の拠点」として、グローバル化の進む世界に向けた取組みを推進する

金沢大学は、1862年に設立された加賀藩種痘所を源流とし、2012年に創設150年を迎えた歴史と伝統を誇る総合大学です。2008年4月に従来の8学部・25学科・課程を再編・統合し、3学域・16学類に移行したことで、学生はより柔軟で自在な学びが可能となりました。また、大学憲章では「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」を基本理念に掲げており、東アジアにおける知の拠点として、グローバル化の進む世界に向けて情報を発信しています。

金沢大学大学院自然科学研究科の概要

金沢大学大学院自然科学研究科は、1987年に自然科学を教育研究する「独立性」、「総合性」及び「学際性」を重視した研究科として設立されました。1997年には5年一貫教育が可能な博士前期課程(2年)と博士後期課程(3年)に区分された区分制大学院に改組され、現在博士前期課程6専攻、博士後期課程6専攻で構成される総合大学院として活発な教育研究活動を行っています。学問領域の区分を超えた横断的な新しい学問分野の教育を実践することにより、創造性に富んだ高度な能力を有する研究者・技術者等を国内外に輩出するとともに、留学生の受け入れにも積極的に取り組んでいます。



金沢大学大学院自然科学研究科 日中韓 環境・エコ技術特別コース

〒920-1192 石川県金沢市角間町
金沢大学大学院自然科学研究科 理工系事務部学生課大学院係
E-mail: s-gakin@adm.kanazawa-u.ac.jp

<http://www.se.kanazawa-u.ac.jp/ecotechgp/>



大学の世界展開力強化事業 キャンパス・アジア中核拠点支援

Environment & Eco-technology Special Course

日中韓 環境・エコ技術 特別コースによる環境教育

金沢大学大学院自然科学研究科(博士前期課程)



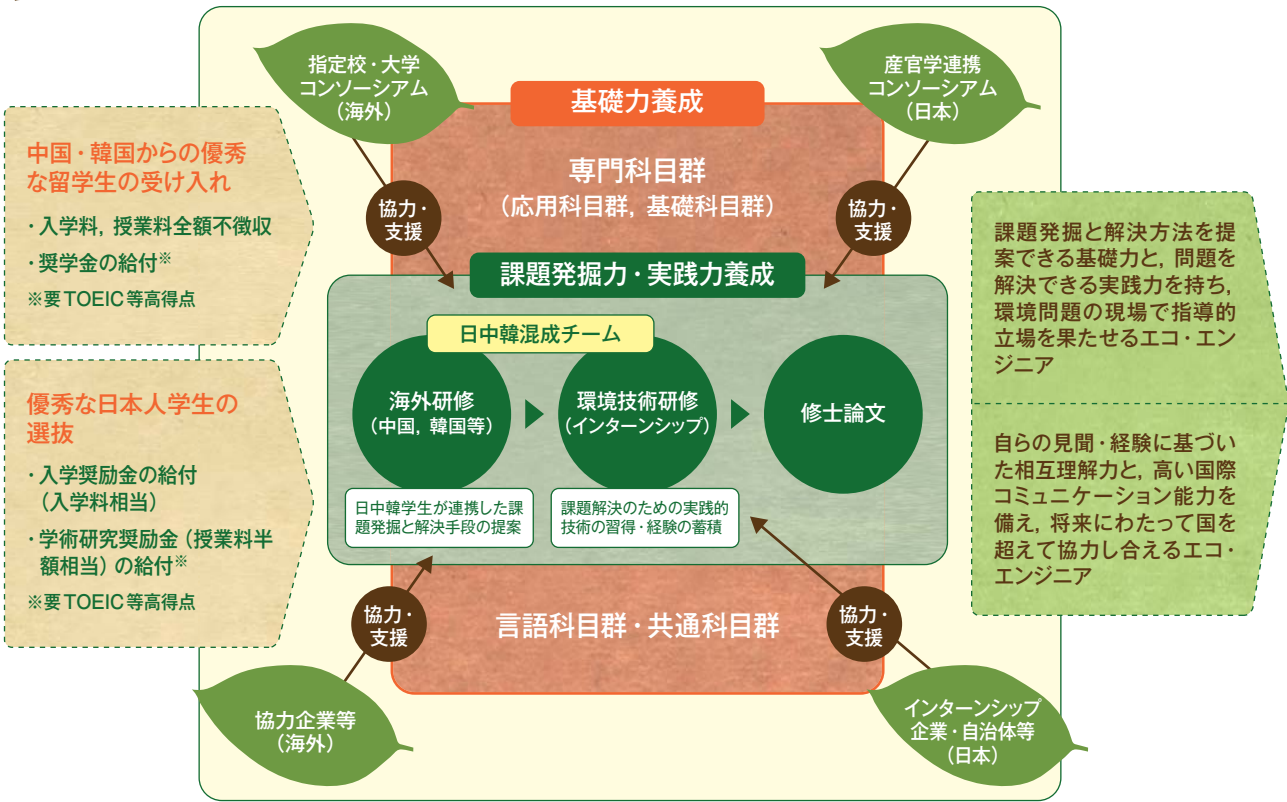
金沢大学

日中韓 環境・エコ技術 特別コースによる環境教育

日中韓の国境を越えて、持続可能な社会発展を支える環境技術についての知識・技能を有する環境技術者「エコ・エンジニア」を養成し、東アジアの製造業企業の資源循環・環境負荷低減に資する人材育成のため、産業界や行政機関と連携して実践的教育を行います。



取り組みの概要



本カリキュラムの特色

① 日中韓3ヶ国混成チームによる活動

3ヶ国の学生が研究活動を通じて、互いに切磋琢磨するとともに、多国間で連携協力して取り組むことの意義を学びます。

③ 長期インターンシップによる課題解決能力の育成

日本国内企業等において長期インターンシップを行い、実践的な課題解決能力を育てます。

② 海外研修による課題発掘能力の育成

日中韓3ヶ国の学生による混成チームで、中国・韓国等での海外研修を行い、自らの見聞に基づいて相互の環境問題を理解し、環境技術についての課題を発掘する能力を育てます。

④ 環境工学の専門知識とコミュニケーション能力の育成

エコ・エンジニアとしての専門知識とコミュニケーション能力を育てるとともに、理工学的視点だけではなく、社会科学や医学的視点からも俯瞰できる力を養成します。

Outline



カリキュラムの体系

課 題 研 究			
応用科目	大気環境科目群	大気環境保全工学, 大気環境単位操作, 大気環境化学	
	水 環 境 科 目 群	水環境保全工学, 水圏環境化学, 環境物理化学	
	土壌環境科目群	環境解析学, 環境微生物学, 土壌分析化学	
	廃棄物対策科目群	環境システム工学, 環境リスク論, 環境システム計画学, 環境科学技術	
基礎科目	環境単位操作, 環境分析及び実験	環境技術研修 (長期インターンシップ) 海外研修	
	環境基礎科学, 環境工学総論		
共通科目	持続可能な社会と環境, 環境と健康, 環境行政 環境マネジメント論		
言語科目	環境技術英語基礎, 環境技術英語応用, 総合日本語		
専攻基礎科目			

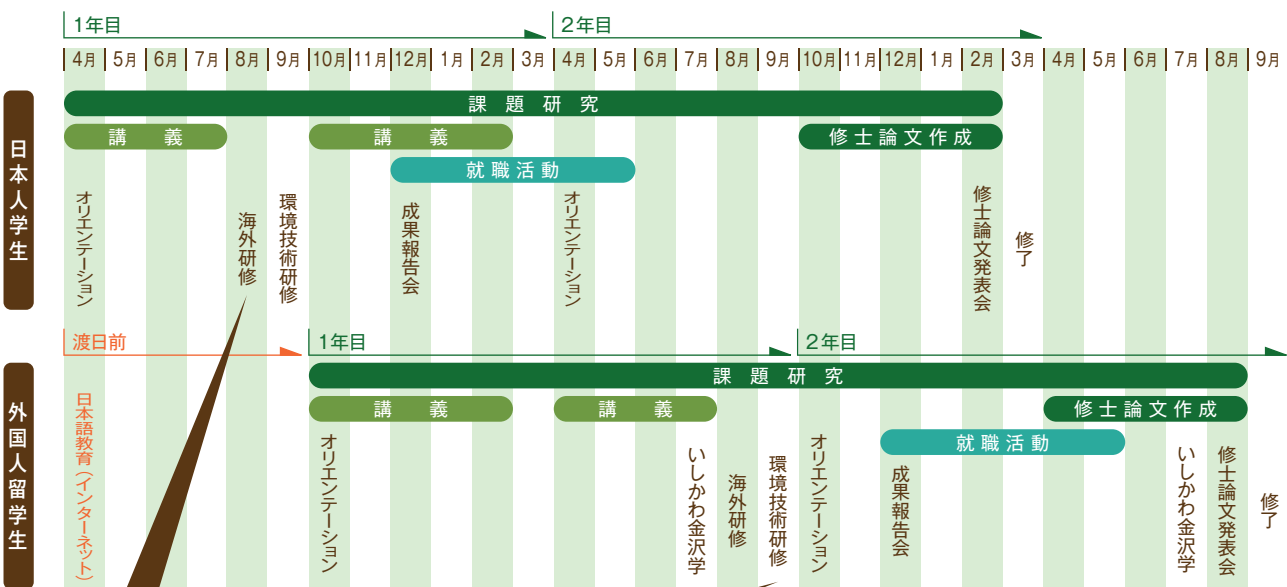
Curriculum

就職支援セミナー & カウンセリング

留学生が日本で就職活動する上での注意点だけでなく、留学生向けの自己分析・業界分析などのセミナーを行っています。また、留学生の進路指導についても企業コーディネーターを配置して、きめ細かな対応をしています。



カリキュラムスケジュール



井上 歩 INOUE AYUMI

出身：福井県
2011年4月 物質工学専攻
(現：自然システム学専攻) 入学



中国で実施された海外研修では、清華大学・北京師範大学の協力のもと、特別講義や施設見学を通じ、北京市における環境への取り組みを学びました。工場や研究所では日本と同程度の機器が用いられ、高いレベルで従事されていることが分かったとともに、現場の研究者の熱意を肌で感じることができ、自分の研究に対するモチベーションが高まりました。一方、安全性への配慮の欠如という課題を目の当たりにする等、自分の目で見て、考え、そしてその場で質問や議論をすることで、現地の環境への姿勢を学びました。また、見学後のフリーディスカッションでは現地学生と率直な思いをぶつけ合い、国籍は違えども共有できる価値観があると深く認識できたことが何よりの収穫でした。

李雲峰 LI YUNFENG

出身：中国
2011年10月 社会基盤工学専攻
(現：環境デザイン学専攻) 入学



企業で働く方々と直に触れ合い、実験等の業務に携わることで、「働く」とは何か、また実際の企業の雰囲気とはどのようなものか、という意識を持ってインターンシップに参加しました。現場では企業の研究開発プロセスを学び、その中の一部の実験に参加しましたが、「安全第一」という概念の重要性を日々痛感しました。また、社員の方々との会話を通して企業生活への理解が深まりました。まもなく就職活動を始める私にとって、このコースのインターンシップは日本企業の雰囲気を実感できるとも貴重な機会となりました。

李貞恩 LEE JUNGEUN

出身：韓国
2011年4月 物質工学専攻
(現：物質化学専攻) 入学



環境に関する様々な授業や企業・施設見学等を通じ、環境に関するアジアの現状及び国際的な動向について学びました。また、日本企業で実施したインターンシップにおいては、日本の環境技術を理解するとともに、日本企業の文化やマナーなどに触れることで、ビジネススキルの向上にもつながる大変貴重な体験が出来ました。研究活動や講義で毎日忙しいですが、週末を利用して旅行に出かけたり、日本人学生や他の留学生との交流を通じて、とても楽しい充実した毎日を送っています。